

特集：福利厚生

【福利厚生とは】

企業活動において、リーマンショック以降、人件費を含むコストコントロールが厳しくなった中で、処遇システムとしての福利厚生の潮流はどうでしょうか。一時は、贅沢な保養施設が問題になった時期もありましたが、現在は、社員の交流の場としての運動会などを企画する場合も多くなっています。また、身近な問題として、社員に向けた生活関連手当や慶弔・災害給付金、介護支援制度、社員食堂の充実、転勤者や単身赴任者などへの手当を充実する企業もあります。また、福利厚生を目的とした会社などとの契約も増えています。大企業だけでなく、中小企業に対する福利厚生の考え方についても、最近の本は少ないのですが、探してみました。



【書籍の紹介】

★福利厚生ハンドブック 新訂版 労務研究所 編 労務研究所 (1999.9) R366.36/16/6

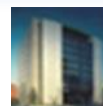
刊行年は古いのですが、福利厚生の事業内容を40の項目別において、それぞれ資料を付けながら紹介しており、その考え方は現在も踏襲されています。それぞれの項目については、提示された資料名から、現在も活躍している人なら、最新の活動内容もネットを通して、知ることができます。法定福利関連諸制度のあらましや、個別の住宅事情、健康管理・健康づくり、リフレッシュ休暇、医療費補助、生活関連手当など、例示があります。

★福利厚生/社内行事ハンドブック 産労総合研究所 編 経営書院 (2010.6) R366.36/140

社内のコミュニケーションを活発にし、業務をさらに円滑に回すための社内行事について、施策と実態、そして運用のポイントを解説します。沈滞する福利厚生のイメージが定着するなか、IT化が進展し、社員間のコミュニケーションが低下している現状で、スポーツ大会が見直されています。また、栄養バランスを考えた社員食堂の併設、住みやすい社宅の整備など、今、見直されている福利厚生の取組みを紹介しながら考えます。

★旬刊福利厚生 労務研究所 (月2回刊行) 雑誌架

こちらは雑誌(逐次刊行物)です。毎号特集を組み、福利厚生に関わる様々な話題や情報が掲載してあります。令和5年には、以下のような特集が組まれました。職場給食の経営指標と価格、老後生活費は確保できるか、法定超のWLB支援制度、カフェテリアプランの配分額、福利厚生パッケージサービスの現状、健康経営・健康増進への取り組みなど、行っています。



★戦略的福利厚生の新展開 西久保浩二

日本生産性本部生産性労働情報センター (2013.1) 366.36/143

まずは、理論的な展開を紹介します。バブル崩壊後、企業福祉の終焉論まで飛び出した福利厚生。長期的な停滞が続く中において、新たな存在価値が再確認できるのでしょうか。低賃金により比較的生活水準が低い従業員層に対して、採用力、定着力の源泉となる「衣食住遊」という基本的生活ニーズを充足する福利厚生について考えます。前著『戦略的福利厚生』(366.36/138)に戦略特性を加えて、制度編成と運営を検証しています。

★よみがえる福利厚生 全国労働基準関係団体連合会

全国労働基準関係団体連合会 (2010.12) 366.36/142

福利厚生とは、お金がかかる、付加的給付で余計なもの、企業の業績が良いときに従業員に与えるもの、という考え方から、金銭的給付ではなく、仕事そのものへの喜び、社会に評価される活動への誇り、という視点に変えていきます。さらに、企業に金銭的負担を求めても、投資以上の成果を上げる効果的な福利厚生を企業戦略の中で考えます。最後の章では事例を紹介します。

★福利厚生アウトソーシングの理論と活用 可児俊信 労務研究所 (2011.1) 366.36/141

企業が活用する福利厚生の仕組みや内容は、時代とともに変化しています。一人ひとりの社員からみれば、社員の生活やライフスタイルが時代とともに変化すれば、福利厚生のサービス自体も変化するの理想でしょう。一方、企業からすれば、経営資産としての捉え方や活用の仕方が問題になります。このような福利厚生の仕組みやサービスをどのように変化させればよいのでしょうか。福利厚生のアウトソーシングサービスの内容やコンテンツについて語ります。

★日本でいちばん社員のやる気が上がる会社 一家族も喜ぶ福利厚生 100 坂本光司

坂本光司研究室 著 (ちくま新書) 筑摩書房 (2016.3) 366.36/147(回転棚)

全国の企業 1000 社にどのような福利厚生をしているかアンケートを実施し、社員とその家族を幸せにしている 100 の事例を紹介します。それが業績にも確実に効果を及ぼしえるという分析を合わせて明らかにします。いつでも子連れ出勤可能、最も眺めのいいところに社員のカフェがある、残業を減らすとボーナスが増える…導入の仕組みや、その効果など、中小企業が工夫をした参考にしやすいユニークな事例です。

☆新蔵書から☆

★なぜ男女の賃金に格差があるのか 一女性の生き方の経済学— クラウディア・ゴールディン

鹿田昌美 訳 慶應義塾大学出版会 (2023.4) 366.21/790

著者は、1900年代から今日に至るまで、大学教育を受けた女性たちが、いかにキャリアと結婚、子育ての問題に向き合い、どのような障壁に直面してきたかを、数十年にわたる自身の研究に基づいて考察します。大卒女子を5つのグループに分け、それぞれの時代背景を解説ながら、証拠となる統計データを効果的に挿入して、「女性キャリア 100 年史」を語ります。なお、著者は、この研究を含めて 2023 年のノーベル経済学賞を受賞しました。